

長谷・高遠エコツアー

事務局 (田中祐・辻本まりえ/環境文明21インターン生)

9月22日から23日にかけて長野県長谷・高遠にてエコツアーを開催した。今回で13回目となるこのエコツアー、今年は「長谷・高遠のファンになろう」をテーマとして、この地域の良いところをもっと知ってもらえるよう企画した。

ツアー1日目は①森林・バイオマスコース、②稲刈り・中尾歌舞伎コース、③高遠歴史コースの3つのコースに分かれて行った。2日目は前日の各コースでの体験を踏まえて、上記テーマのワークショップを行った。

コース① 森林・バイオマス



家具工房で家具作りをしながら、森林の整備事業や薪の会で薪ストーブの推進活動もしている中山和文さんから、森林の現状や保全の難しさ、地元環境資源を活用したバイオマス等についてお話を伺った。

長谷の山はかつて大規模な植林が行なわれたための、現在大規模な間伐が必要なほど木が密集して生えている。中山さんたちは政府や県の助成金を受けながら、この人工造林の間伐を行っている。間伐によって倒された木は倒したままにしておくと、まだ生えている木の生長の妨げになるため撤去する必要がある。そこでNPO法人薪の会を立ち上げ、間伐によって倒されたままの木を取り除き、薪ストーブのエネルギー源として活用している。薪の会では、薪ストーブを奨励するために、ストーブの展示会を開く機会を設けることなども行っている。近年では、大型の機械も導入し、地元住民へ安くて質の良い薪の供給も始めた。

今回のバイオマスコースでは、一連のお話を伺った後に、間伐されたままになっている林や、間伐前後の変化を見比べたり、実際に大型の薪割り機で薪を作る様子を見ることができた。

コース② 稲刈り・中尾歌舞伎

このコースでは稲刈り体験をした後、かつて農作業の後の楽しみだった村歌舞伎について伊那市役所の中村徳彦さんからお話を伺った。

稲刈りについては、機械の手の届きにくい田んぼの隅の部分を担当するということがあったが、稲を刈る感触や、刈った稲を束ねる難しさなど、普段味わうことのできない体験をすることができた。そこからトラックの荷台に乗って中尾の歌舞伎座に移動し、中尾歌舞伎の歴史についてのビデオを見た後、中村さんに歌舞伎座の中を案内していただいた。楽屋から奈落と呼ばれる舞台下の空間、回り舞台など普段ではとても見るこのとできないようなところまで見学することができた。最後にはご自身が歌舞伎役者でもある中村さんに、口上を教わった。

コース③ 高遠の歴史

「高遠ぶらり」として、高遠藩が治めた高遠城址および城下町として栄えた高遠の街を散策した。案内役として、伊那市図書館館長の平賀順也さんに、高遠の歴史文化についてお話していただきながら高遠の街をめぐった。